

# 奮闘するも、綾羽に惜敗

## 準優勝と好成績を収める

サッカー



彦根東 0-1 綾羽

▶激しく競り合う野坂駿介君(2-18)



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校  
新聞部  
彦根市金亀町4番7号

1月26日にビックレイク(野洲市)で高校サッカー新人大会の決勝、対綾羽戦が13時30分から開始された。後半4分に点を決められ、追い返そうと奮闘するも0対1で惜敗した。

同日に行われた準決勝で近江兄弟社高校に2-0で勝利し、決勝戦に進出したサッカー部。対戦相手は八幡高校に勝利した綾羽高校だ。気温が低く小雨が降る悪天候の中、奮闘したが0-1で惜敗した。

いつもどおり円陣を組んで始まった試合。前半12分に背番号24番の左崎敦也君(2-1)がシュートを打つもゴールラインの直前でクリアされてしまう。その後、綾羽高校に攻められ、後半4分に点を決められた。なんとか点を返そうと、後半25分に16番の大久保佳徳君(1-8)がシュートを放つも止められ、点は返せずに試合は終了した。全員が「まだいける。切り替えよう」と声をかけ合い、最後まで



◀シュートを止める郡田くん

で諦めずに試合に臨んだ。

キャプテンの寺本大智君(2-4)は「ディフェンス陣が頑張ってくれた。全員が全力で試合に臨めて良かった」と振り返った。準優勝を果たし「サッカー部の歴史上で一番良い結果が残せたことは名誉なこと。チーム一丸となつて、もう一度この喜びを味わえるように頑張りたい」とコメントし、春の大会に向けて意気込んだ。部長兼副キャプテンの柴田昂輝君(2-7)は「準決勝から決勝まで休憩が50分しか無く、疲労があまり取れず体力的にきつかったが、皆が気持ちを切らさずに試合に臨んでいたのが良かった」と感想を話した。準優勝について「今までの大会では失点が多かったが今回はディフェンスが成長し、失点が減った。全員が共通意識を持って目標に向かって頑張ったこと

が準優勝に繋がったと思う」と微笑んだ。キーパーの郡田和明君(2-5)は「皆頑張っていた。点を決められてしまったのはチームのせいでは無いと思うので、実質は0-0の試合だった」と話し、春の大会に向け「もっと上手くなつてリベンジし、もう一度ベスト4を獲る」と目標を掲げた。

試合に出場した荒木直人君(2-8)は「負けたが、皆が団結していて良い試合だったと思う」と振り返り「団結力をさらに高めて、誰が出場しても勝てるようなチームになりたい」と力強く話した。

顧問の西村考史先生は「粘り強く守れていた。他校からのマークも厳しくなると思うが少しでも上位に行けるように楽しみながら頑張ってもらいたい」とエールを送られた。



▶奮闘したサッカー部員たち